

2019年 展覧会情報

印象派からその先へ—世界に誇る吉野石膏コレクション

4月9日[火]—5月26日[日]

バルビゾン派から印象派を経て、その先のフォーヴィスムやキュビスム、さらにエコール・ド・パリまで、大きく揺れ動く西洋近代美術の歴史を吉野石膏コレクションの72点の作品によってご紹介します。石膏建材メーカーとして知られる吉野石膏株式会社は1970年代から絵画の収集を始め、2008年には吉野石膏美術振興財団を設立。ミレー、ドガ、モネ、ルノワール、ファン・ゴッホ、ピカソ、シャガールなどのコレクションには、いずれも名作が揃います。吉野石膏コレクションが誇る西洋近代美術の傑作をまとめて紹介する展覧会は中部地方では初めて。知られざる珠玉の名品を、お見逃しなく。

あいちトリエンナーレ 2019 情の時代

8月1日[木]—10月14日[月・祝]

第4回となる「あいちトリエンナーレ 2019」は、ジャーナリスト／メディア・アクティビストの津田大介氏を芸術監督に迎え、「情の時代 Taming Y/Our Passion」をテーマに開催します。そこには「情報によって我々の感情が煽られ、それによって翻弄された人達が、今世界中で分断を起こしている。アートの持つ力で、人々の情けに訴えることによって、問題解決の糸口を探っていきたい」という思いが込められています。名古屋市美術館では国内外から招待された約10組のアーティストの作品を紹介します。

カラヴァッジョ展

10月26日[土]—12月15日[日]

イタリアの国民的画家、ミケランジェロ・メリージ・ダ・カラヴァッジョ（1571-1610）。日本ではその作品を目にする機会が少なく、まだ知る人ぞ知る存在ですが、17世紀バロック美術の先駆者として、西洋美術史では最重要人物の一人として確固たる地位を築いています。きわめて生々しい描写、光と影による巧みな演出、深い精神性がみられるカラヴァッジョの芸術は唯一無二であり、一瞬で見る者の心を捉えます。本展覧会は札幌、名古屋、大阪に巡回し、名古屋会場となる当館では日本初公開の作品を含むカラヴァッジョの絵画約10点（帰属作品を含む）と、カラヴァッジョと同時代、または後代にその強い影響を受けた画家たちの絵画約30点を紹介します。

没後 90 年記念 岸田劉生展

2020 年 1 月 8 日[水]－3 月 1 日[日]

大正から昭和にかけて活躍した画家・岸田劉生（1891－1929）。劉生といえば愛する娘の姿を描いた「麗子像」がまず語られますが、38 歳という若さで亡くなるまで肖像画、静物画、風景画といった多彩なジャンルに取り組み、独創性のある作品を描きました。劉生の作品の多くは、作品や日記から制作日を知ることができます。展覧会では、よく知られた《麗子微笑》（重要文化財）や長く所在が不明であった作品を含めた初期から最晩年までの約 160 点を年代順に紹介し、劉生の歩んだ絵画の道をたどります。没後 90 年を迎えても衰えることのない劉生の絵画の魅力をたっぷりご堪能ください